



桂米朝一門会

人間国宝 桂米朝
生誕百周年

第四十六回市民落語鑑賞会
おいでなんしょ寄席

企画・構成／おいでなんしょ寄席実行委員会 寄席文字／橘左近 橘右橋

桂南光

高い人気と確固たる実力

桂吉坊

米朝師から信頼厚かった故吉朝門下

桂米團治

米朝のDNAを受け継ぐ名手

豊田陽昇

「日本地図」漫才でお馴染み

令和8年

1月16日(金)

飯田文化会館ホール

午後6時30分開演 (開場 午後6時)

※未就学児入場不可。託児コーナー(無料)の予約は12/25(木)まで[定員あり・先着順]

※公演中止の場合を除き、ご購入後のチケットの変更、キャンセルは一切お受けできません

チケット発売日

11月12日(水)

※発売初日は、お一人様1回につき6枚まで

全席指定

※学生…高校生以下

1階席 一般 5,000円
学生 2,500円

2階席 一般 3,000円
学生 1,500円

【プレイガイド】

■飯田文化会館 11月12日(水)9時～

※発売日以降は平日8:30～17:15

※電話予約は発売翌日8:30～(残席がある場合)

■チケットオンライン「いいチケ」

11月12日(水)9時～

<https://p-ticket.jp/iida>▶▶▶

■平安堂飯田店・座光寺店 11月12日(水)10時～



主催 おいでなんしょ寄席実行委員会／飯田文化会館／南信州新聞社

お問い合わせ 飯田文化会館 〒395-0051 飯田市高羽町5-5-1 TEL.0265-23-3552

飯田文化会館

検索

桂米朝一門と

おいでなんしょ寄席

三十余年の歩み

おいでなんしょ寄席と桂米朝一門との縁は、決して浅いものではありません。

1989(平成元)年5月21日の初回以来、長年にわたり当寄席のプロデュースを担ったのが、飯田市扇町出身の寄席文字書家・橋左近師匠(1934年〜2023年)です。

ふるさとへの恩返しとして、東西の名だたる落語家を飯田に招き続けた左近師匠は、1997年4月5日、

念願であった市制60周年記念特別企画「祝!人間国宝二人会」を実現。柳家小さん師匠、桂米朝師匠という二人の人間国宝を一堂に迎えるという、奇跡的な一日を創り上げました。

この「国宝二人会」は、飯田を含め全国でわずか2回とされます。左近師匠は、1991年に小さん師匠、1993年に米朝師匠をそれぞれ単独で招いた上で、7年の

歳月をかけてこの企画を結実させたのです。

新宿末廣亭の前席亭・北村幾夫氏も当時を振り返り、「左近師匠は、二人の人間国宝にとっても気を遣って、大変そうだったことをよく覚えていてます」と語っています。

今回の「桂米朝一門会」は、米朝師匠の生誕100年という節目にあわせて企画されたものです。

受け継がれた芸と、各々の持ち味をどうぞ心ゆくまでお楽しみください。



桂 南光

かつら はんこう



優勝し、桂べがこの名でお茶の間の人気者に。1993年、上方落語の名跡・三代目 桂南光を襲名した。米朝一門の看板として全国での落語会に出演するとともに、テレビ・ラジオで活躍中。NHK「バラエティー生活笑百科」には、ほかご時代の1986年からレギュラー出演し、相談室長だった笑福亭仁鶴の休演中には室長代理を務めた。芸歴は55年を超え、話芸にはさらに磨きがかかっている。

五代目 桂米團治

かつら よねだんじ



米朝を名乗る。2008年、桂米團治の名跡を五代目として襲名。上方落語の華やきを大切に守りながら古典落語を探究、独自の世界を構築している。また、自分自身をモーツァルトの生まれ変わりと称し、オーケストラと多数共演。オペラと落語を合体させた「おべらくご」という新分野も確立した。

桂 吉坊

かつら きちぼう



桂米朝のもとで内弟子として修行した。上方落語界の俊英、落語界屈指の古典芸能通として知られ、歌舞伎や能、文楽、雅楽、日本舞踊などへの造詣の深さは芝居囃で生かしている。なにわ芸術祭奨励賞、同新人賞、繁昌亭大賞奨励賞など数々の賞に輝き、2008年には「能登の花ヨメ」で映画デビュー。著書に『桂吉坊がきく藝』がある。

寄席文字 体験教室

開催のお知らせ

開催日 令和8年 1月17日(土)
会場 丘の上結いスクエア

- 事前申込制です。希望者多数の場合は第46回寄席に会場される方を優先します。
- 時間、参加費、申込方法などの詳細は、11月上旬にお知らせします。

おいでなんしょ寄席は、橋左近師匠の逝去後もなお、橋流寄席文字一門とのご縁を大切にしています。師匠の生まれ月である1月に開催する今回は、左近師匠が生涯をかけて磨いた寄席文字の魅力に、実際に筆をとって触れていただける特別な機会を設けました。飯田下伊那にしながら、東京の寄席で息づく“芸の文字”を学べる貴重な機会です。この冬、筆が描く伝統の世界を、どうぞご体感ください。

講師 橋 右橋 たちばな・うきつ

講師を務めるのは、左近師匠の弟弟子であり、芸能会社社長として、長年にわたり左近師匠のおいでなんしょ寄席プロデュースを支えてきた橋右橋(たちばな・うきつ)師匠。令和7年からは日本テレビ「笑点唇」の寄席文字を手掛け、同年1月には、勘亭流の一派である「三禮勘亭流」三代目家元・荒井三禮の名跡を継承されました。



お問い合わせ 飯田文化会館 TEL.0265-23-3552